

2021年2月14日 礼拝説教要旨:フィリピ書シリーズ(2)

フィリピの信徒への手紙 1:8~11 「愛の心で祈る」

高井 卿 介

前回はフィリピの手紙の第1回目として1:1~7から、手紙の挨拶と序文の箇所を学んだ。今回は「わたしは、こう祈ります」(9節)と書いて、パウロが祈った実際の祈りのことばを見ることが出来る貴重な箇所である。

I. 祈りの人パウロ

彼の手紙に祈りの言葉が書かれているということは、彼が祈りの人であったからである。それは彼がダマスコ郊外で復活のキリストに出会い、回心したその直後から彼は「祈りの人」となったのである。

パウロがダマスコで復活のキリストと出会った時、真昼の太陽よりも明るい光に照らされたので目が見えなくなり(使徒26:13)、彼は人々に手を引かれてダマスコの町に入った。

そのパウロの目が見えるために、アナニアというクリスチャンが神に遣わされた。神はアナニアにパウロの事を「今彼は祈っている」(使徒9:11)と教えた。パウロはその時、眠っていたのでもなく、食事をしていたのでもなく、祈っていたのであった。彼はその姿勢を一生崩さなかったのである。

II. エフェソの手紙に見る祈り

パウロは手紙の中に祈りの言葉を書き記している。これはクリスチャンにとって祈りの模範になり、お手本になり、励ましになる。

その代表的な祈りの言葉が書かれているのが、「エフェソの手紙」の中に2ヶ所ある。

① 第1の祈りは、1:15~23で、その17節から「どうか…」という言葉で祈りが始まっている。その祈りは、心の目が開かれ、神から与えられる希望や嗣業がどんなに豊かで、栄光に富んだものかを悟ることが出来る様にとの祈りである。

② 第2の祈りは、3:14~21で、ここでパウロは「わたしは御父の前にひざまずいて祈ります」と言っている。パウロの祈りの姿勢が分かる。またその祈りの内容が素晴らしい。

それを見てみよう。まず、「どうか…信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、…愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように」と。続いて「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し…」と祈っている。

III. フィリピ書に見る祈り(1:8~11)

フィリピ書でパウロは、フィリピの信徒たちの愛の増加を祈っている。「あなたがたの愛がますます豊かになり」(9節b)と。そのために、「わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれる」(ローマ5:5b)必要がある。

これを明治32年発行の「元訳聖書」は次のように訳している。「我らに賜ふ所の聖霊に由りて神の愛我らの心に灌漑(そそげ)ばなり」と。

これは聖霊が私たちの心に注がれる一つの姿が描かれている。聖霊の注ぎは必ずしも激しいものばかりでなく、田植え直前の水田に、その前の晩に静かに水が灌漑されて満たされるような、満たされ方もあることを知らなければならない。

